

1 過去3年間の数値動向

項目	令和元年度	令和2年度	今年度目標 今年度実績
教員相互の授業参観延べ回数(回)	121	△181	200 △280
授業満足度(%)	71	△75	80 △80
GTEC CEFR A2以上(1年)(人)	100	/	35 ※14
GTEC CEFR A2以上(2年)(人)			70 ※29
GTEC CEFR A2以上(3年)(人)			90 ※71
英検準2級以上取得者数(人)※	32	▼16	△39
夏期冬季講習時間数(時間)	403	▼135	250 △250
生徒の1日平均学習時間(分)	136	△154	150 ▼93
3年次11月模試平均点全国平均比(%)	国67.8 数53.2 英60.2	△国69.4 △数60.8 △英60.9	各教科70.0 ▼国65.9 ▼数46.0 ▼英60.8
現役進路決定率(%)	93.7	▼90.4	94.0 ▼87.0
4年制大学合格者数(現役)(人)	147	△149	150 ▼108
私立大学(早慶上智理科)現役合格者数(人)	1	1	2 0
私立大学(GMARCH)現役合格者数(人)	1	1	2 1
私立大学(成成武明学)現役合格者数(人)	4	▼0	4 △2
私立大学(日東駒専)現役合格者数(人)	9	△12	15 ▼7
就職者数(うち公務員数)(人)	9(2)	△12(1)	15(3) 11(1)
一日あたりのクラスの平均遅刻者数	2.65	△0.8	▼1.3
特別支援教育に関する委員会の開催回数(回)	3	△4	4 △11
統一体力テスト全国平均比(%)	男子 86.2 女子 90.4	未実施	全国平均の90% 男子 83 女子 83
部活動加入率(%)	80	▼78	85 △83
学校満足度(生徒)(%)	76	76	80 △79
学校満足度(保護者)(%)	94	94	95 ▼89
生徒の部活動満足度(%)	44	△57	60 ▼49
生徒の生徒会活動満足度(%)	54	△60	65 ▼50
文化祭来場者数(人)	157	未実施	非公開
学校説明会等参加者数(本校実施分)(人)	1,328	▼728	1,300 △865
中学校進学対策委員会志願倍率(倍)	0.95	▼0.64	1.10 ▼0.59
入学選抜応募倍率(推薦)(倍)	2.08	▼1.73	2.50 ▼1.33
入学選抜応募倍率(第一次募集)(倍)	1.12	▼0.82	1.20 ▼0.79
ホームページ更新回数(回)	121	△171	180 △246
一般需用費のセンター執行率(%)	55.6	▼48.4	50.0 △52.4

※ コロナ禍のため Speaking 未実施、人数は Reading のスコアを提示、新たに英検取得者数を掲載

## 2 今年度の成果と課題

### 1 学習指導

#### (1) 相互授業参観

実施回数は、学校経営計画の目標を達成した。研究協議をする時間が中々確保できず、教員が個別に参観者から感想をうかがうようにしている。若手教員は自分で先輩から助言を受ける姿勢がみられるが、中堅以上の教員の授業について指摘することは容易でなく、管理職から行うしかないのが現状である。

#### (2) 管理職による授業観察後の個別指導

正規教員全員に2回以上、文書のメール配信による個別指導を実施した。

#### (3) 生徒による授業評価の実施

1学期末に従来からの調査、12月までに外部機関を活用した調査を実施した。

外部機関利用のアンケートでは、学校全体として、すべての評価項目で肯定的な評価が9割以上の割合となる75ポイントを上回った。総合評価目標達成率79.0% 対話協働76.9、学習効果78.1、それ以外は80ポイントを上回った。

#### (4) 教員別「授業改善ポートフォリオ」の作成と活用

1～3の結果を踏まえ、EXCELファイルで全教員の授業改善ポートフォリオを作成、第1回授業参観後の校長コメント→自己分析①→相互参観者の指摘事項も踏まえた第2回以降の授業観察後の校長コメント→自己分析②というPDCAサイクルを確立した。

#### (5) 駿台予備学校、代々木ゼミナール等主催教員対象セミナー（対面・映像）の受講

全教職員を対象とし、第一学習社の小論文指導講座教員対象セミナーを配信した。

受講した教員の気付きが指導の改善につながった。

報告書や伝達研修を通して指導の視点や最新の情報等を共有し、教員相互の切磋琢磨に繋がっている。

#### (6) 「観点別学習状況の評価」のためのルーブリック作成

適宜教職員全員に最新となると思われる資料をTAIMSメールで配信した。

個人作業及び教科会での検討→「単元」ごとに作成することを意識して、教科・科目全体の包括的な資料を作成（一般化）するのに苦戦していた。

#### (7) 教育のオンライン化への対応

ICTリーダー＋各分掌担当者からなるICT委員会を設置した。

9月からTeamsを活用した連絡を開始し、ICT支援員の協力を得て先進的な取組をしている教員の事例を配信している。

教員には一人1台端末を配布し、活用が図られつつあるが、一人1台端末の導入に向けて全教員の当事者意識を向上させ、十分に活用できるスキルを身に付けさせる必要がある。

### 2 進路指導

#### (1) 進路アドバイザー制度の確立

大学や専門学校等、多様な選抜方法に対応するため、全教員による「進路アドバイザー」制度の充実を図り、マニュアルを作成し進路指導部による研修を実施した。

特に面接、志望理由書の書き方、小論文等の指導については、夏季休業期間等に外部機関（第一学習社）の配信する講座を受講できるようにした。

#### (2) 専門学校との連携

2学期より土曜特訓と並行して、公務員対策講座も実施した。

(3) 総合的な探究の時間等

進路指導部及び総務部（国際理解教育を所管）の策定する年間指導計画に基づき、外部人材を招聘した教育活動を数多く行った。

(4) 教科による模試の分析

データを基にした学習指導・授業への反映等は十分であったとは言えない。

### 3 生徒指導

(1) 教育相談機能の充実

本校では、特別支援を必要とする生徒だけでなく、対人関係構築や自立に向けた課題を抱えた生徒の支援も必要である。そこで、従来の「特別支援教育推進委員会」を「生徒支援委員会」として再編し、月1回の定例会を必須とした。また、子供家庭支援センターや医療機関、学校経営支援センター等と連携し、SCやYSWを活用するなどして、個々の生徒の課題に応じた支援を行った。

(2) 部活動・特別活動の振興

学校行事や学校説明会等で意図的に生徒会や部活動生徒の活動・発表の場を提供

部活動や生徒会の生徒が自主的に教員と共に朝の校門で挨拶運動を実施するようになった。

書道部が個人で令和4年度の全国大会に進出することになった、全日本高等学校書道コンクールでは大賞に2名、準大賞に3名が選ばれ、学校としては優秀校として表彰を受けた。

コロナ禍の中でも工夫して実施した学校行事の満足度は80%を超える高い評価であったが、部活動や生徒会活動については、ともに前年度を下回り50%前後の満足度であった。

### 4 組織運営

(1) 「学校運営アンケート」の実施

課題把握のために年度当初に全教職員を対象として「学校運営アンケート」を実施した。そして、課題解決の方策を含めた「学校経営計画」を策定・実行した。年度末に再度検証し、次年度の改善に資する。

(2) 適正な事案検討手順の徹底

時には学年・分掌間の連携が十分でないことがあり、担当者が十分な手順を踏まず、直接校長に相談しにくることもあった。そこで、事案検討の際には、まず副校長を通すことを徹底するようにした。その結果、教職員の意識や対応も変わりつつある。

(3) 中堅教員の発掘・育成

若手教員のスキルや積極性を上回る資質をもったリーダー層が不足気味であり、校務に関する姿勢を学ぶことができる良き手本となる中堅教員の発掘・育成が急務である。

次年度は、分掌主催の校内研修や教科主任会及び教科会を意図的・計画的に実施する。

(4) ホームページの充実

動画は12本程度配信し、ホームページ更新回数も250を超えた。

授業や学校行事における生徒の様子が伝わるように工夫し好評であった。それでも、応募倍率は、中進対0.59倍、推薦1.33倍、学力一次0.79倍といずれも振るわず、二次募集でも定員は充足できなかったが、19人の応募があり、令和3年度と同数の入学者は確保できた。

次年度は学校としての特色を更に明確に打ち出し、中学校との連携や私塾訪問等、募集対策に一層力を入れ、本校を第一志望とする受検者の拡大を図っていく。